

第1章

[1] 研究背景

今日、コーヒーは、日本と中国において、人気を集める飲料となっている。ところが、中国では、近代におけるコーヒー文化に関わる研究はほぼ空白という状況である。一方、日本には先行研究があり、コーヒー文化の受容期に関する研究が多い。しかし、先行研究では、新聞や雑誌などの一次資料の分析を伴っていたものの、分析対象を特定の一紙のみに絞った綿密な分析はまだ不十分である。

[2] 研究目的と方法

このような反省を踏まえ、本研究では、日中両国の特定の新聞を綿密に調査分析し、これから見えてくる両国のコーヒー文化の様相について明らかにしたい。本研究の目的は、近代の日本と中国において、コーヒーが大衆社会にどのように普及していたかについて、日中両国の新聞を調査分析することにより明らかにすることである。

研究方法としては、日本の『読売新聞』と中国の『申報』を取り上げ、それぞれの国の新聞紙がどのようにコーヒーの関連報道を行ったかを調査する。まず量的な調査の結果によって、全体の報道傾向を把握し、その上で、紙面分析を行う。それを踏まえて、それぞれの国のコーヒー文化の普及過程を考察し、検討する。

[3] 分析対象と調査期間

1.分析対象『読売新聞』、『申報』

- ・『読売新聞』(1874年創刊) 全国紙 発行日の連続性の高さ、発行部数の多さ (ヨミダス歴史館)
- ・『申報』(1872年創刊) 商業新聞 発行期間の長さ、影響力の強さ (上海図書館、国家図書館)

2.調査期間：創刊～第二次世界大戦終結まで...『読売新聞』創刊(1874年)～1945年、『申報』創刊(1872年)～1945年

第2章 調査結果と紙面分析

[1] 『読売新聞』と『申報』の報道量の傾向分析

1 全体の報道量

- ・『読売新聞』(計1,095件、傾向：逐年増加、変化：最初は少ない→1930年代が最多→1940年以降減少)
- ・『申報』(合計2,239件、傾向：逐年増加、変化：最初は少ない→1930年代が最多→1940年以降減少)
- ・〈まとめ〉総量：『申報』は『読売新聞』のおよそ2倍、傾向：逐年増加、変化：同じ(少→多→少)

[2] 『読売新聞』と『申報』の報道内容(資料一覧参考)

第3章 分析と考察、今後の課題

[1] 分析と考察

1.近代における日中両国でコーヒーが登場していた。

2.報道量及び傾向の分析から、日中両国で全体的にコーヒーが普及していたことが明らかになった。

- ・日本での普及要因：明治の文明開化、カフェパウリスタの成功、メーカー広告等
- ・中国での普及要因：上海開港、租界の設立等

3.報道内容の傾向の違い

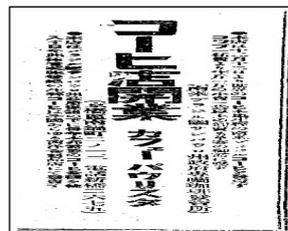
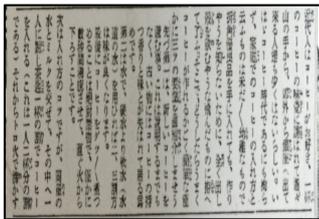
- ・日本：大衆への本格的な普及
- ・中国：少数のエリートのみ普及、大衆コーヒーへのマイナスイメージがあり、大衆への普及状況を再検討する必要がある。

[2] 今後の課題

今回は近代日中の新聞のうち二紙のみしか取り上げていない。そのため、コーヒーの普及状況の全体像を捉えきれず、その一端が明らかになっただけである。今後は他の新聞の分析も行い、さらに日中両国のコーヒーの普及に関する分析と理解を深めたい。

【資料一覧】

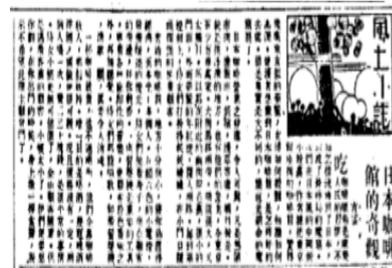
- ①「素晴らしく旨い珈琲の入れ方」
（『読売新聞』1935年09月23日9面）
- ②カフェパウルスタの広告
（『読売新聞』1911年12月12日4面）
- ③木村コーヒー店の広告
（『読売新聞』1933年6月25日6面）



- ④「扶桑雑記 咖啡女郎的魔力」
（『申報』1931年09月18日11面）



- ⑤「日本咖啡馆の奇观」
（『申報』1935年9月25日14面）



「…初到日本的人定要非常的奇怪。為什麼日本人一尤其是日本的青年學生一這樣喜歡喝咖啡，當我們走到一個大學區域時。我們首先發見的。便是那些門面帶着未來派圖案式的小咖啡店。…據日本警視廳的調查。截止本年三月為止。單是東京一地。現有咖啡店三千二百十五家。咖啡女給（女招待）二萬零四十三人。…咖啡店因為開設多了。營業競爭。是非常的劇烈。他們一咖啡店的老板們。勾心斗角的力求布置的特別新奇。有的把客座裝飾得古香古色。好像在開着古董展覽會。有的是歐化得先端。最近在銀座一日本的老百匯路一又一家叫做日輪得咖啡店開幕。…」

「…初めて日本に来る人は必ず可笑しいと思う。なぜ日本人、特に日本の青年学生たちは、そんなにコーヒーを飲むのが好きなのだろうか。私たちがある大学のキャンパスにいったとき、まず発見したのは、ドアの正面に未来派図案が付いている小さい珈琲店だった。…日本警察署の調査によれば、今年3月までに、単に東京だけで珈琲店は三千二百十五軒ある。珈琲女給（女招待）は二万四十三人である。…珈琲店は多いから、競争も厳しくなっている。珈琲店のオーナーは、互いに腹を探り合って暗闘し、できるだけ目新しい内装をつくる。あるオーナーは客席に昔前の時代があった装飾を施している。そのため、店内は骨董品の展覧会を開いているような雰囲気である。あるオーナーはヨーロッパふうの装飾を施して欧風化の先端をいっている。最近、銀座-日本の老百匯路-また、日輪と呼ばれるある珈琲店がオープンした。…」

「喝咖啡原来是欧美人氏之习惯，不知怎么流传到了日本。…我们在日本风的中国新小说里，作者总把东京银座街的咖啡馆，赞的与广寒宫似的华丽，…使读者想道日本咖啡馆，是怎样的好去处。…日本咖啡馆营业之发达，令人可敬，凡是热闹市街，银库，新宿，浅草等处，触目皆是。就是很冷清的地方，也有他们的营业，全东京至少有几万家。…一杯咖啡最贵，也不过两角，…大规模的咖啡馆（有时称洋酒店），有二三层楼，装饰华丽，可于游戏场大公司并驾齐驱。…咖啡馆大王李起东，是朝鲜人，以经营咖啡馆而起家的。…日本人时常要批评美国人讲究跳舞喝酒，奢侈靡费。但是自己国内的喝酒和喝咖啡的恶习，也很兴盛。…」

「珈琲を食べるのは、本来欧米人の習慣であるが、いつの間に入ってきたのかはわからない。…日本風の中国新小説の中で、作者がよく東京銀座の珈琲館を広寒宮のように褒美し、…読者に対して「日本の珈琲館は、どれほどいいところだろうか」と思わせる。…日本の珈琲店の発達、人を驚かせる。賑やかな町、銀座、新宿、浅草、どこにでもある。寂しいところでさえ、珈琲館が見られる。東京全域で少なくとも何万軒の珈琲館があるだろう。…珈琲一杯なら、高くても両角だ。…大きな珈琲館（たまに洋酒店と呼ばれる）は、二、三階の高さがある。内装は華麗で、大きな遊園地とほとんど優劣がない。…珈琲館大王李起東氏は北朝鮮出身であり、珈琲店経営から身を起こした。…日本人はアメリカ人のダンス好き、お酒好きに対して、アメリカ人の浪費をよく批判している。ただし、日本国内においても、お酒、珈琲を飲む悪習慣が盛んである。…」